

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2490100019
法人名	株式会社 SHINEI
事業所名	かすみそうの家
所在地 (電話番号)	三重県桑名市森忠1728-4 (電話) 0594-33-3337
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 3 月 25 日 (火)

【情報提供票より】 (H19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 10人, 非常勤 3人, 常勤換算	9.45人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有() 円) 無			
入居負担金 (入居一時金含む)	有()70,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(12 月 25 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2		7 名	
要介護3	5 名	要介護4		6 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 87.4 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きひら内科消化器科 いなべ総合病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の西部に位置し、事業所前は県道が通り、バス停留所になっており、商業地でもある。道路沿いに明るい色調の(クリーム色)のひときわ目立つ建物が事業所である。室内は木の造りで、床はフローリングで温かみがある。管理者はじめ職員は明るく前向きであり、ケアにおいても、アセスメントに利用者の生活歴、趣味嗜好、意向が把握され、その一つとして利用者の誕生会には出身地の郷土料理を作り楽しみながら味わっている。また、感動したことを川柳に詠む等ゆったりとのびのび過している。利用者の重度化の終末期のケアも利用者、家族、医療機関、職員等で取り組みつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回は第1回目の評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	職員に初回外部評価の実施を説明し、自己評価を職員が自己のケアを振り返る機会として話し合い、全体のケアサービスに関しては管理者がまとめた。
重点項目	③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は概ね3ヶ月に1回開催されている。メンバーは、利用者家族、地域住民(欠席)、市職員、管理者が出席し、事業所の概要、行事予定等の報告や意見交換がされ、会議の記録もされていた。参加メンバーの地域住民が毎回欠席であったことから、複数のメンバーを依頼されるよう検討されることを期待したい。
重点項目	④	事業所の行事に参加された家族にアンケートを実施して、意見希望等を汲み取り、出された意見はミーティング等で話し合い、ケアの見直しに努めている。苦情相談窓口は重要事項説明書に明記されている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所の立地環境が商業地であり、自治会等に加入していない。近隣の店舗(喫茶店、飲食店)には事業所の啓発を行っている。また、市、町が開催する行事に参加して交流に努められてはいるが、更に、道路向かい側の地域(住宅)との交流を進められることを期待したい。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は同一法人の事業所と同じ、「みんなの笑顔は、みんなの命のお薬」となっている。それを踏まえて職員と話し合い、利用者が地域の中でも笑顔で暮らせるような関係を築きつつある。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は玄関、事務所内に掲示され、職員の採用時には理念を説明し理解を得ている。また、月1回のミーティング、申し送り確認している。職員によっては理念を書いて携帯している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地環境が商業地であり、自治会には加入していない。事業所(施設長)からは近隣の店舗等に啓発をしている。積極的に市、町の行事(音楽会、寄席)に参加し交流するように努めている。	○	広域地域の行事には参加されているが、道路向側の地域(住民等)との交流を更に進められることを期待したい。
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初回の外部評価の実施をミーティングで説明をした後、自己評価については、職員各自のケアを振り返る機会としての項目は話し合い、全体のケアサービスについては管理者がまとめている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はH18年11月から実施、最近では平成20年2月に開催、概ね3ヶ月に1回開催されている。メンバーは利用者家族、市職員、包括支援センター職員、地域住民(欠席)、管理者、職員が出席し、事業所の概要、行事等を報告し会議の記録もされている。	○	運営推進会議は定期的に開催し事業所の取組み状況を説明され、参加者の理解と支援を得る機会になっている。参加者メンバーの地域住民代表が、常に欠席(体調不良)になっていた。新たに選任されるか、複数の地域代表を選定されよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の出席依頼、介護保険の代行申請、行事案内等で市、町へ出かけ、連携はよく取れている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の日常の様子を話している。遠方の家族にはビデオレターで利用者の様子をみてもらっている。金銭管理は利用者一人ひとりの小使管理帳があり、入金時に家族が確認している。利用料については毎月利用請求書(兼領収書)を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、よく話しかけるように努めている。また、行事に参加した家族にアンケートを記入してもらい、家族の意向を汲み取るようにしている。アンケートの結果、意見等はミーティングで話し合い見直しをしている。苦情、相談窓口等は重要事項説明書に明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後同一法人内での職員(1人)異動はあったが、職員、利用者とも同一法人内を行き来きしてこともあり影響は少なかった。職員の異動については配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修(内部)はじめ全職員を対象に施設長が、講師で年3回研修を実施し、研修後レポートを提出させている。外部研修にも参加し自己研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人事業所とは常に交流している。管理者、職員は他の同業者(グループホーム)へ見学に出かけているが、相互訪問等の活動までには至っていない。	○	今後は管理者、職員とも他の同業者との交流する機会を多く持ち、サービスの質の向上を目指すよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
施					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者、家族とは顔馴染みになるため訪問等で面接し、家族の協力で生活歴、趣味等の情報を得て、事業所の雰囲気に馴染んでもらうように努めている。		
の					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との日常の暮らしの中で、食事の盛り付け、後片付け、来客への湯茶の接待、花の水やり等を一緒にしながら支え合う関係になっている。		
CD					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者一人ひとりの思いは、「個別日誌」に記されており、喫茶店、市場(3・8日)に行きたい利用者は職員と一緒に出掛けるよう支援している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族等の意見、要望等をミーティングで検討し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成後3ヶ月の時点、1年の時点にミーティングで検討し見直しをしている。また、「かすみそう日記」に記された職員の気づき等は、月2回のミーティングで見直しをしている。利用者の状態に応じて随時話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
で					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の希望に応じて、市場への買い物、馴染みの理容院、自宅への外出、医療機関受診等に職員と一緒に出かける支援をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3か月に1回主治医への受診を支援している。歯科、眼科の医療機関からの往診もあり、医療機関との連携はよく取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度の利用者を家族の同意を得て、主治医、職員とで緊急ミーティングをしながらケアを継続している。今後も利用者、家族、協力医療機関、事業所等で話し合い終末期ケアについて検討している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあつた言葉かけ、トイレ誘導、入浴介助等に配慮している。利用者、職員も下着類の取り扱い等は人目に触れないように扱っている。書類等の個人情報の取り扱いも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のリズムの中で、利用者一人ひとりの気持ち、体調を配慮して散歩、買い物、花の水やり等希望に添うよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事が楽しみになっており、月2回手づくりおやつとして、さくら餅、今川焼を作った。月1回の誕生日には利用者の出身地の郷土料理を作り職員と一緒に食べる等楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前、午後どちらでも入浴はできるようになっている。基本的には週3回は入浴してもらうよう入浴ボード(実施表)に入浴状況が記されていた。感染症のある利用者には配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、好きな事を見出し、食事の後片付け、戸締り、カーテンの開け閉め、花の水やり、居室の利用者への声かけ、(食事の知らせ)来客へのお茶だし等楽しみであり役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、ウッドデッキでの外気浴、利用者の体調に応じて買い物、喫茶店に出かける等支援している。調査日に介護度の高い利用者がリクライニングの車椅子を利用して自宅まで外出されていた。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は外からは入れるようになっているが、中からは外に出られない。居室は施錠されていない。居間からウッドデッキへは自由に出入りでき、玄関横の職員、業者の通用口は、施錠されておらず自由に出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災、避難訓練が実施されていないが、4月に消防署の指導で実施予定である。緊急連絡網は整備されており、災害時は近隣の店舗、会社への協力を働きかけている。	○	早期に消防署の協力を得て初期消火、避難訓練等を実施されることが望ましい。地域の協力体制については、運営推進会議で協議されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり開始ア					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者から購入。献立、栄養のバランスは配慮され、調理は事業所で行っており、特別献立(誕生会)は事業所で賄っている。利用者各自の食事摂取量、水分摂取量も業務日誌に記録されていた。水分摂取量チェック者は2名いる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の壁には理念が掲示されていた。廊下は幅が広く、天井も高く天窓からの柔らかい光は心地よい。居間からはウツトデッキの季節の花が眺められ廊下の一角にはソファと植木の鉢が置かれ、居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、エアコン、収納押入れ、洗面台、カーテン等が設置され、利用者の好みのソファ、写真、感謝状等があり、「盆栽士」の資格のある利用者の居室には鉢物の花がいっぱい飾られていた。利用者それぞれが落ち着いて過ごせるようになっている。		